

7/3 調査結果 ( )は予想

**生育状況**  
生育が早い地区では、中干しが開始されています。  
幼穂形成期は低温に最も弱い時期となりますので気温に関係なく深水管理で幼穂を守りましょう。  
7月最下旬からは出穂開花期となり、稲が水を必要とする時期となりますので、できる限り水田に水を入れている状態を保ちましょ

調査地点		穂首分化期	幼穂形成期	出穂期
まっしぐら	本年	大沢 碓ヶ関	6/27 7/4	(7/6) (7/12)
	平年	J A	7/3	7/11
はれわたり	本年	小栗山 唐牛	7/3 6/28	(7/11) (7/7)
	平年	J A	6/30	7/8
青天の霹靂	本年	松木平 森山	6/28 7/4	(7/6) (7/12)
	平年	J A	7/1	7/9

## 1. 7～8月の管理

時期	管理	コメント
幼穂形成期から 10 日間 (本年 7 / 10 頃～)	気温に関係なく、暑くても寒くても幼穂を保護するために 10cm 程度の深水	・穂の長さが決まります。このころに低温に遭遇すると白ふ発生可能性があります。
追肥時期 (7/10～20 まで)	 追肥体系処理の方は 	・葉色が薄い場合 追肥の実施 ・葉色が濃い場合 (1) 7日～10日後にもう一度確認し葉色が薄い場合 追肥の実施 (2) 減数分裂期になっても葉色が淡くならない場合や、分けつ量が多い場合 追肥の中止
減数分裂期から (7 / 20 頃～)	寒い日...15～20cm の深水 暑い日...浅水、時々入れ替え	・健全な花粉を増やし、不稔障害発生予防 ・根の活力維持
出穂開花期 (7月最下旬～)	気温の高い日...5～6cm、時々入れ替え (猛暑日...かけ流しによる地温低下促進) 気温の低い日...10cm の深水	・ <u>稲の生育期間中、最も水を必要とする時期です。</u> ・開花・受精促進や根の活力維持の効果があります ・猛暑日はかけ流しを実施 (胴割れ米防止対策)
登熟期 (8月上中～下旬)	気温の高い日...2～3cm、時々入れ替え 気温の低い日...10cm の深水	湿田や秋落田では、根の老化を防止するため、掛流しや土壌に軽く亀裂が入る程度の間断かんがいを行いましょう!

## 2. 病虫害防除

### (1) 畦畔の草刈について

草刈時期	7/20 頃まで	イネ科雑草が開花・結実する前に刈り取る。
草刈中止時期	7/20 頃～8/31 頃	逆にカメムシを水田に追いやることになるので実施しない。

### (2) 航空防除の実施について

航空防除で散布したことにより、斑点米カメムシ類の密度は減りますが、すべての人が一等米になるわけではありません。申し込みをされている方は、7 / 15 頃までに散布圃場に旗を設置してください。

### 問題となっているカメムシの紹介

アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ
卵で越冬し年4回発生	卵で越冬し年3回発生
8月を中心に出現する第3世代成虫が雑草地から水田へ侵入・定着し、被害をもたらします。長い触角が赤いのが特徴	8月を中心に出現する第2世代成虫が雑草地から水田へ侵入・定着し登熟期間中、長くまで被害をもたらします。穂揃20日後の防除が効果的です。前胸背から橙赤色を帯びているのが特徴
	